

和歌山県白浜町瀬戸漁港における アンドンクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱)の大量発生

久保田 信*・田名瀬英朋**

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: Mass occurrence of *Carybdea rastonii* (Cnidaria, Cubozoa)
in Seto Harbor, Shirahama, Wakayama, Japan

アンドンクラゲ *Carybdea rastonii* HAACKE, 1886は北海道から沖縄県沿岸にかけて広く分布する中型のクラゲで、海水浴シーズンに出現し、人を刺傷して炎症を起こさせる毒の強いクラゲの一種である(ジェーフィッシュ, 2006)。久保田による1999年から2005年までの和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸漁港での毎日1回の定期的な目視観察(主として早朝実施)では、アンドンクラゲが出現したことは一度もなかった。ところが2006年8月初旬に、初めて大量のアンドンクラゲの成体が遊泳していたのを久保田が確認した(図1)。昼間には最多で60個体あまり、夜間には100個体以上が群泳していた。8月中は本種の出現がほぼ毎日のように続き、個体数の増減はあるものの、昼夜を問わず8月2日から17日まで頻繁に見られた。その後はまったく見られなくなった。なお、アンドンクラゲの瀬戸漁港での出現は、Cheryl Lewis AMES氏(Smithsonian Institution, USA)により上記より数日前に確認されていた。情報を提供して下さった氏に深謝致します。

今回の突然のアンドンクラゲの大量出現の理由を推量すると、本年は梅雨が長く続き7月末までの雨量が多かったことと、その後の海水の高温、特に表層で30℃を超える日々が連続して続いたことによるポリプからクラゲへの変態の促進と遊離したクラゲの成長のよさによるものであろう。AMES氏によると瀬戸臨海実験所周辺海域でのプランクトンサンプル中にアンドンクラゲの幼体の複数個体を採集したとのことなので、他の海域から生体が流れ寄ってきたものではなく、このあたりで自然に発生したものである可能性が高い。

一方、田名瀬による1983年以降の瀬戸漁港での不定期な観察によると、アンドンクラゲが大量に出現した年月は、1983年8月27日の約60個体(早朝時)の確認と1984年8月17日の数百個体(夜間)の確認である。また1984

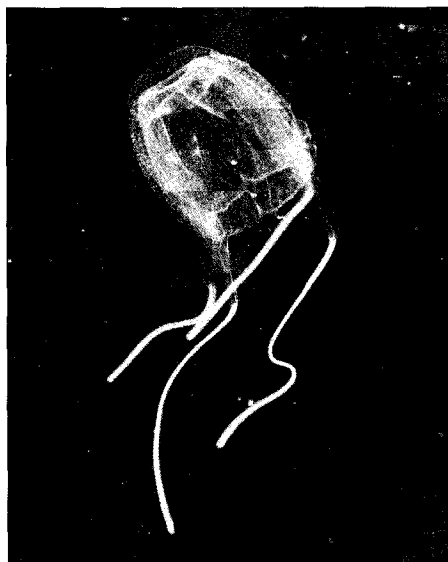


図1 和歌山県白浜町瀬戸漁港に2006年8月に出現した傘高約3.5 cmのアンドンクラゲの成熟個体(紀伊民報、山口一夫氏撮影)

年8月4日に、白良浜で観光客が刺傷されたクラゲが白浜町観光課より瀬戸臨海実験所に持ち込まれ、田名瀬と伊藤立則博士によりアンドンクラゲであると同定された経歴もあるので、1984年の8月にはこの種が大量発生したのであろう。

以上のことから、アンドンクラゲは環境状況によっては白浜町沿岸では多数の個体が8月に発生し、海水浴客を刺傷することもあるといえる。

引用文献

ジェーフィッシュ, 2006. クラゲのふしぎ. 255頁. 技術評論社, 東京.

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
〒649-2211 Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama, Japan

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676